

# CSRレポートを発行 —のCSR活動を紹介

## ■ 2013年度版 CSRレポートの発行

昨年7月号のこのコラムでミサワホームにおけるCSR活動の基本方針と、その内容を対外的に公表するために作成しているCSR報告書「HEARTH」についてご紹介させていただきました。今年も6月に2013年度版を発行しましたが、今年度は報告内容をより充実させるため、CSR報告書の国際的なガイドラインである「GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン2011 (第3.1版) 」への対応をより意識したものと、報告書名称も「CSRレポート」と変更しました。また、当社のCSR推進の考え方を図式化し(図-1)、義務的CSRとしての「法的責任」から戦略的CSRの「社会貢献責任」までの幅広い内容を紹介しています。

ミサワホームでは「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、「倫理的責任」として環境に配慮しつつ社会のニーズにこたえる優良な住まいづくりを進め、お客様満足度を高めることが当社の一番の使命と考えて

いますが、今回はこれらの住まいづくりと関連した「社会貢献活動」の一部として、2013年度版のCS

Rレポートにも掲載した、ミサワホームと南極とのかわりについてご紹介いたします。

図-1 ミサワホームの考えるCSR概念

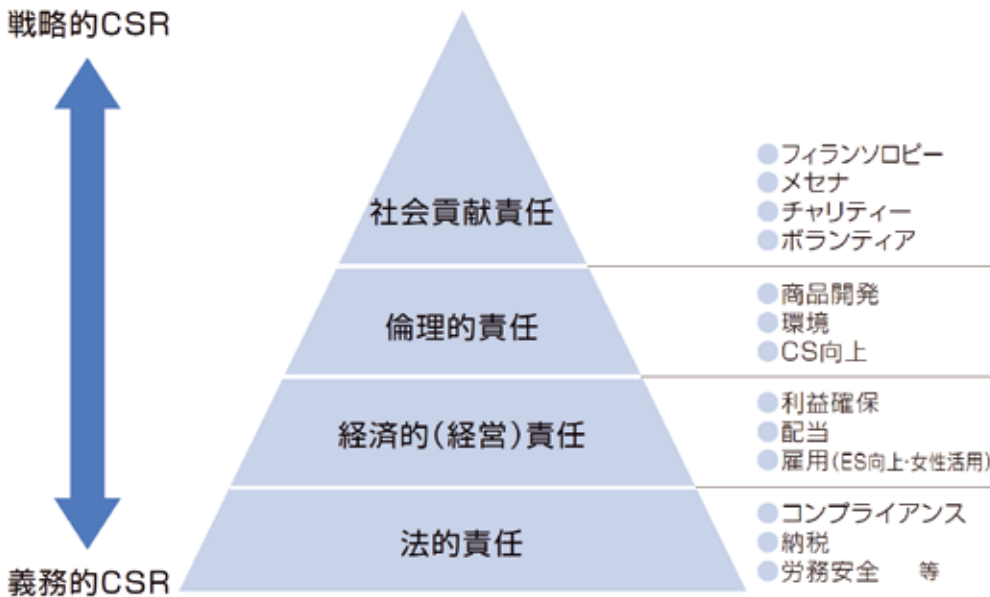




図-2 南極昭和基地の建物

写真提供 (財)日本極地研究振興会

吹雪に遭えば、建物はすぐさま雪に埋もれてしまうという過酷な自然環境の中で、隊員の安全と安心を確保できる建物を建設しなければなりません。

ミサワホームは、1968年の「第10居住棟」以来

■ 過酷な自然環境に耐える

昭和基地では最低気温がマイナス45℃にもなり、風速60m/秒(時速216km)ものブリザードを記録したことがあります。

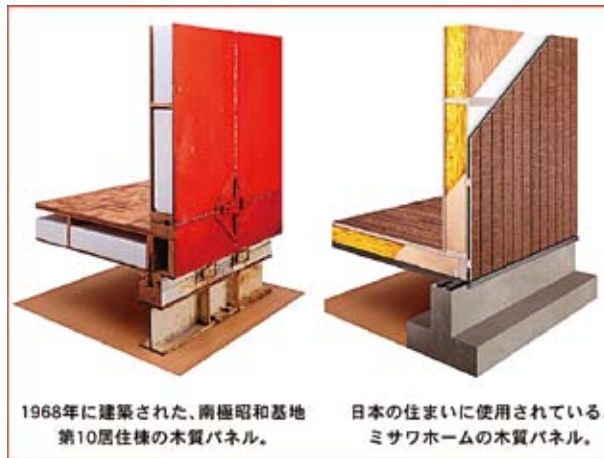
動が行われています。

学、地学など広範囲の分野で研究活

■ ミサワホームと南極とのかわり

南極では現在、日本を含む19カ国が計40ヶ所に基地をつくり、観測を行っています。南極地域観測は、南極条約に基づき、国際協力のもと国が実施する事業の一つです。日本は1957年に昭和基地を開設して以来半世紀にわたって観測を実施し、超高層物理学、気象学、雪氷学、生物学、地学など広範囲の分野で研究活動が行われています。

図-3 木質接着複合パネル



1968年に建築された、南極昭和基地第10居住棟の木質パネル。

日本の住まいに使用されている、ミサワホームの木質パネル。

南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計35棟、延床面積約5,500㎡になります。その多くの建物に採用されています。

ている木質接着複合パネルとは仕様も性能も異なるものの、格子状の木質芯材を用いて断熱材を充填する充填断熱方式や、パネルの両面を接着する両面パネル接着工法に

■ 極地で培った最先端技術を日本の住まいに

この観測に携わる隊員は、夏隊と越冬隊に分かれ、研究観測や定常観測などを担当する観測系の隊員と、基地の設備や生活の維持を担当する設営系の隊員で構成されています。

限られた人数で観測から生活までを行うため、隊員は問わずにも各分野の専門家であることが求められます。

いる木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制の下、外装、断熱材、内装があらかじめ工場に醸装され、南極昭和基地での限られた建設期間で、建築経験のない隊員でも施工でき、厳しい南極の気候に耐え続ける性能が特長です。(図-2)

日本の家でミサワホームが使用している木質接着複合パネルとは仕様も性能も異なるものの、格子状の木質芯材を用いて断熱材を充填する充填断熱方式や、パネルの両面を接着する両面パネル接着工法に

しています。

## ■自然エネルギー棟は 流線型の屋根

今年の11月に日本を出発する第55次日本南極地域観測隊員にも極地研



図-4 自然エネルギー棟

究所の所員としてミサワホームグループの社員1名が選任されています。

今回の選任により当社グループからの南極地域観測隊への参加隊員数は延べ15名、第50次から6期連続となり、昭和基地のシンボルの建物となつている「管理棟」

や「第1・第2居住棟」、太陽光発電や風力発電の制御室、蓄電池室などを設けた大型建築物「自然エネルギー棟」の建設などを担当しました。

昨年完成した「自然エネルギー棟」はブリザードによる雪の吹き溜まりなどの雪害を軽減するため、敷地形状や周辺の地形などを考慮した風洞実験・コンピュータ解析を繰り返した結果、流線型の屋根形状を採用しました。

(図-4)

## ■「南極クラス」の開催

建物受注や隊員派遣以外の分野においても、南極や南極地域観測隊の活動をより多くの方々にお知らせし、身近に感じてもらうことを目的としたサイト「南極の歩き方」を自社ホームページ内に開設しています。

観測活動の内容をはじめ、南極の自然現象や未踏の地を切り開いた南極探検家など、南極に関する幅広い情報を紹介しています。

また、全国の学校生活共同組合や教育関連団体と連携し、極地研究所の協力を得て、日本南極地域観測隊に参加した社員らが講師となり、教育支援プログラムとして、小学校や中学校を中心に授業を行う「南極クラス」を開催しています。

生徒には、遠い南極の世界を身近に感じてもらうとともに、将来の夢や希望を持つこと、お互いに支えあいミッションを達成していくチームワークの大切さなどを伝えています。昨年度は117校で約12,000

図-5 南極クラス



0人の生徒を対象に開催、今年度も全国で実施しています。(図-5)

他にも、「国立極地研究所南極・北極科学館」や「名古屋市科学館・新館」において、南極昭和基地の居住棟のカットモデルを出展協力するなど、南極の観測活動の普及・啓発に協力しています。

ミサワホームグループでは今後も、昭和基地の建物供給や専門技術を有する社員の派遣などを通じて、南極の観測活動に協力していきます。